

【中国経済経営学会・第2回国際セミナーのご案内】

改革開放期に入った中国経済は、長期的な高度成長を持続してきた一方、中国の経済統計に関する疑念やそれに関する議論が中国の内外で盛んに行われてきた。中国のオフィシャルな統計の信頼性の低さが中国崩壊論の根拠として持ち出される議論も多かった。その中で、米ピッツバーグ大学トーマス・ロースキ (Prof. Thomas G. Rawski) 教授が2000年以降に発表した中国のGDPデータの真実性についての論文は、多くの専門家、学者および経済界人士の関心を集めている。そして、ロースキ教授は最近、中国の電力産業に照準を合わせて上記の問題を研究している。

この度、我が学会は、ロースキ教授の最新の研究成果をうかがうために、ご本人をお招き、国際セミナーを下記の要領で開催する運びになった。会員の皆様、是非この貴重な機会へ奮ってご参加ください。

・テーマ Electricity as a Window into China's Economic Achievements, Problems and Prospects

・日時 2017年4月15日(土) 午後15:00~17:30

・場所 立正大学品川キャンパス11号館8階第6会議室

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

JR大崎駅・五反田駅 下車徒歩5分程度

東急池上線 大崎広小路駅 下車徒歩1分程度

(会場の場所は山手通りに面する11階建てのビルです)

・使用言語 英語

・スピーカー Thomas G. Rawski (ピッツバーグ大学教授/一橋大学特任教授)

・司会 苑志佳 (立正大学教授)

・当日の予定

15：00～15：05 開始、あいさつ（苑志佳）

15：05～15：15 ロースキ教授の研究についての紹介（中兼和津次前会長）

15：15～16：00 ロースキ教授による講演

16：00～16：20 討論者によるコメント・問題提起（二人）

16：20～17：20 参加者全員参加のディスカッション

17：20～17：30 クロージングリマークス

* 会場の収容定員の事情によって参加希望される方は、下記のアドレスにメールでご参加を申し込んでください（参加者氏名・所属・肩書を）（japan593271@yahoo.co.jp）。

** セミナー終了後、五反田駅周辺にて懇親会を開く予定

◆講師紹介◆

Prof. Thomas Rawski is a professor of Economics and History at the University of Pittsburgh. He has written extensively on the economy of China. After completing his doctorate in Economics at Harvard University, Rawski participated in diplomatic tours of China as a member of a delegation dedicated to the study of rural industry and, as such, regularly visited China throughout the 1970s and the 1980s. He joined the University of Pittsburgh's faculty in 1985 after fourteen years at the University of Toronto. His research focuses on the nature and implications of recent developments and long term changes in the economy of China.